

「中世哲学演習 B/B2」

中世哲学のエッセンスを読む

A. シラバス

A-1. 基本情報

科目名・単位・開講期 中世近世哲学演習 B・2 単位・通年／中世近世哲学演習 B2・2 単位・秋学期

曜日・時限・教室 水曜日・3 時限 (13:00-14:30)・6102 教室

担当教員 上村 直樹 (KAMIMURA, Naoki)

A-2. 講義の目的・内容

中世哲学のエッセンスを英語の翻訳で読む。この演習では西欧中世哲学史において問われた問題群のなかから「幸福」や「意志」や「人間の目的」といった倫理学の根本的なテーマを選び、中世を代表する哲学者であり神学者でもあるトマス・アキナスが著した代表的なテキストを読むことを通して中世倫理学の基本的な概念を学ぶとともに、現代とは異なる或いは共通する哲学的な思考についての理解を深めることを目指す。

この演習では英語のテキストを読みすすめるとともに、中世哲学の基本概念についてアリストテレス倫理学の受容も含めた哲学史的な観点を踏まえて学ぶ。

A-3. 学修到達目標

A. 英語テキストを読み解くことを通して、哲学的なテキストを分析する方法に親しむ。

B. 中世哲学の基本的な概念を踏まえて、哲学的な思考法について理解する。

C. テキスト読解を踏まえたレポートを作成する。

A-4. 講義スケジュール

この演習では、授業に参加している人々の理解の度合いを踏まえてテキストを読み進めるので、あらかじめ定められた範囲通りに読みおえることを目指さない。

テキストを丁寧に読むことが大切なので、以下のスケジュールはあくまで目安としてほしい。

第 1 回 中世哲学を学ぶための指針について説明する

第 2 回 トマス・アキナス『神学大全』第 2-I 部〔人間の幸福についての論考〕第 9 問第 1 項を読む

第 3 回 「第 9 問第 1 項」に関する疑問点の検討とテキストの論理や構造について

第 4 回 トマス・アキナス『神学大全』第 2-I 部〔人間の幸福についての論考〕第 9 問第 1 項を読む

第 5 回 「第 9 問第 1 項」に関する疑問点の検討とテキストの論理や構造について

第 6 回 トマス・アキナス『神学大全』第 2-I 部〔人間の幸福についての論考〕第 9 問第 2 項を読む

第 7 回 「第 9 問第 2 項」に関する疑問点の検討とテキストの論理や構造について

第 8 回 トマス・アキナス『神学大全』第 2-I 部〔人間の幸福についての論考〕第 9 問第 2 項を読む

第 9 回 「第 9 問第 2 項」に関する疑問点の検討とテキストの論理や構造について

第 10 回 トマス・アキナス『神学大全』第 2-I 部〔人間の幸福についての論考〕第 9 問第 3 項を読む

第 11 回 「第 9 問第 3 項」に関する疑問点の検討とテキストの論理や構造について

第 12 回 トマス・アキナス『神学大全』第 2-I 部〔人間の幸福についての論考〕第 9 問第 3 項を読む

第 13 回 「第 9 問第 3 項」に関する疑問点の検討とテキストの論理や構造について

第 14 回 トマス・アキナス『神学大全』第 2-I 部〔人間の幸福についての論考〕第 9 問第 4 項を読む

第 15 回 「第 9 問第 4 項」に関する疑問点の検討とテキストの論理や構造について

A-5. 指導方法

A. 対面授業と非対面（メディア）授業を組み合わせたブレンド型によって実施する

B. 非対面（メディア）授業においては、配信されるテキストの読解に集中するとともに、インターネット環境を活用することによって質疑応答を進める

C. 対面授業においては、質疑応答を踏まえた解説をテキストを一層よく理解するための術語や哲学的な背景も含めて行うことによって、テキストを支える論理や構造についての理解を深めるとともに、新たな質疑応答を試みる。

〈授業の形態〉

対面授業と非対面（メディア）授業それぞれのメリットを考慮したうえで、二つの授業の形態を隔週に組み合わせるブレンド型授業によって実施する。

受講者は先行する非対面（メディア）授業において講読するテキストの配信を受け取った上でその読解に取り組み、所定の範囲について作成した訳文とともに疑問点を記入した「読解ノート」を ToyoNet-ACE 経由で提出する。つづく次週の対面授業において、「読解ノート」を踏まえた質疑応答を行なうとともにテキストの論理や構造についての解説が提供される。

非対面（メディア）授業ではアプリケーションの Discord を利用するとともに ToyoNet-ACE を併用するので、これらを利用するための端末とインターネット環境が必要となる。対面形式で行なわれる初回授業のガイダンスにおいて授業の形態の詳細と注意事項について説明する。

A-6. 事前・事後学習

事前学習については、それまでに読解したテキストについて再度検討する。この事前学習の所要時間の目安は 30 分程度とする。

事後学習においては、ノートをふりかえって疑問点を確認するとともに議論の内容についての考察を進める。この事後学習の所要時間の目安は 30 分程度とする。

A-7. 成績評価の方法・基準

「読解ノート」を中心とした授業への貢献度の評価 50%、学期末のレポート 50% によって総合的に評価する。非対面（メディア）授業への出席は ToyoNet-ACE 経由で提出される「読解ノート」によって判断する。なお、成績評価の基準は東洋大学の成績評価基準に準拠している。

A-8. 受講要件

特段の要件はない。ただし英語テキストを詳細に読みつづけるという意欲が求められる。

A-9. テキスト

非対面（メディア）授業においてインターネット上のアプリケーションを通じて配布する。なおアプリケーションの利用が困難になる場合は別途その手段についてメーリングリストを介して連絡する。

A-IO. 参考書

第 I 回目の授業において参考文献の一覧表を配布する。また、必要におうじて担当教員のウェブサイトにおいて文献表をアップロードするので、担当教員の指示にしたがってアクセスしてほしい。

B. トマス・アキナス『神学大全』を読むために

B-I. 中世・近世思想史略年表

622	ヒジュラ（イスラム共同体が成立）
711/12	イスラムによるスペイン征服
800	Charlemagne 戴冠（カロリング・ルネサンス）
877	† Eriugena
950	† Al-Fārābī
1037	† Ibn Sīnā (Avicenna)
1077	カノッサの屈辱（教皇権全盛へ）
1095	第1回十字軍の提唱
1109	† Anselmus (Cantabury)
1111	† Ghazālī (Algazel)
c. 1142	† Abelardus
1153	† Bernard de Clairvaux
12 init.–	<i>Chartres School</i> : Bernard de Chartres – Thierry – Guillaume de Conches – John of Salisbury <i>Saint-Victor School</i> : Hugo de sancto Victore – Ricardus
c. 1158	Petrus Lombardus, <i>Sententia</i>
1198	† Ibn Rushd (Averroes)
c. 12 fin.–	ヨーロッパ各地に大学創立 (Bologna, Sorbonne, Oxford, Padova, Napoli)
1226	† Francisco (Assisi)
1274	† Thomas Aquinas – † Bonaventura
1280	† Albertus Magnus
1284	† Sigerus (Brabant)
1292/4	† Roger Bacon
1293	† Henricus (Ghent)
1308	† Joannes Duns Scotus
1309	アヴィニョン捕囚 (–1377)
1328	† Meister Johannes Eckhart
1347	† William Ockham
1464	† Nicolaus Cusanus
1499	† Marcilio Ficino
1517	Luther 95 theses
1617	† Suárez
1650	† Descartes

B-2. トマス・アクィナスの生涯

1224/25	アクィノ王国の伯爵ランドゥルフの子としてナポリ近郊ロッカセッカ城に生まれる。
1230-39	モンテ・カシノの大修道院へ修道志願児童として送られ、伯父シニバルトから教育を受ける。
1239	ロッカセッカに戻り、ナポリ大学において自由学芸を学び、アリストテレスの思想に接する。
1244	ドミニコ会に入会する。
	ベネディクト会の大修道院長就任を期待した家族が翻意を迫り、トマスを数ヶ月間監禁するが、姉の助力により解放される。
1245-48	パリにおいてアルベルトゥス・マグヌスに師事する。
1248-52	アルベルトゥス・マグヌスがケルンに赴くのに同行し、そのもとで学ぶ。
1252	パリに戻り、アルベルトゥス・マグヌスの推挽によって命題集講師となる。
1256	ボナヴェントゥラと同じく、神学部教授に就任し、公に神学を講ずる。
1259	パリ大学での任期を終え、イタリアへ派遣される。
1260	ドミニコ会ローマ管区の修道会顧問となる。
1269-70	パリにおいて、アヴェロエス的アリストテレス説と論争する。
1273	フィレンツェの修道会総会議に参加する。
1274	リヨンにおける公会議に参加の途上、フォッサヌオヴァーのシトー派修道院において病により亡くなる。

B-3. 著作の分類

1. 神学に関する総合的な著作

- ・『命題集註解』 cf. ペトゥルス・ロムバルドゥス『命題集』(1148-1152)
- ・『神学大全 (Summa theologiae)』(1266-72, 1272-未完)
- ・『対異教徒大全 (Summa contra Gentiles)』(1258-64)

2. 討論集

『自由討論集 (Quaestiones quodlibetales)』と『定期討論集 (Quaestiones disputatae)』

- ・『真理について (De veritate)』
- ・『神の能力について (De potentia Dei)』
- ・『魂について (De anima)』
- ・『悪について (De malo)』

3. 聖書註解

4. アリストテレス註解 (1268-72)

5. その他の著作註解

- ・原因論註解
- ・ボエティウス註解
- ・ディオニシウス・アレオパギタ (神名論) 註解

6. 小論文

7. 社会哲学的な諸著作

8. 書簡

B-4. 『神学大全』内部の構造について

I. 『神学大全』全体の構造概略

- 序論: 「聖なる教え」について
- 第 I 部: 神について (De Deo)
 - i. 神の本質に属することがら
 - ii. 神のペルソナの区別に関することがら (三位一体論)
 - iii. 神からの被造物の発出に関することがら (天使、物体、人間)
- 第 2 部: 理性的被造物の神への運動について (De motu rationalis creaturae in Deum)
 - i. 人間の生の究極目的
 - ii. それによって人間が究極目的へと至る、あるいはそれから逸れることがら
 - A. 行為と情念
 - B. 行為の原理
 - ・ 内的原理としての徳
 - ・ 外的原理としての法と恩寵
- 第 3 部: われわれにとって神へ向かう道である、人間である限りでのキリストについて (De Christo qui, secundum quod homo, via est nobis tendendi in Deum)
 - i. 救い主について (受肉論、イエスの生涯)
 - ii. 秘蹟について
 - iii. 復活と最後の審判

2. 『神学大全』第 2 部の構造抜粋

- 人間の生の究極目的 I-II 第 I-5 問
- 究極目的にそれによって到達する (逸れる) もの
 - i. 一般的に I-II
 - A. 人間の行為それ自体について
 - ・ 人間に固有の行為 (意志的なことがら voluntarium) I-II 第 6-21 問
 - ・ 動物と共有する行為 (情念 passiones) I-II 第 22-48 問
 - B. 人間の行為の原理について
 - ・ 内在的原理
 - 習慣一般 I-II 第 49-54 問
 - 善き習慣 I-II 第 55-70 問
 - 悪しき習慣 I-II 第 71-89 問
 - ・ 外在的原理
 - 法 I-II 第 90-108 問
 - 恩寵 I-II 第 109-114 問
 - ii. 個別的に II-II (以下略)

C. 参考文献

C-1. この演習で使用するテキスト

1. New English Translation of St. Thomas Aquinas's *Summa Theologiae* (*Summa Theologica*), trans. Alfred J. Freddoso, last updated 11 July 2023:
<https://www3.nd.edu/~afreddos/summa-translation/Part%201-2/st1-2-ques09.pdf>.
2. St. Thomas Aquinas, *The Summa Theologica*, Part II (First Part), First Number (QQ. 1–XLVIII), trans. Fathers of the English Dominican Province (London: R. & T. Washbourne, 1914).
3. *Sancti Thomae de Aquino Summa Theologiae*, prima pars secundae partis a quaestione I ad quaestionem V, Corpus Thomisticum, textum Leoninum Romae 1891 editum et automato translatum a Roberto Busa SJ in taenias magneticas denuo recognovit Enrique Alarcón atque instruxit, last accessed 30 March 2024: <https://www.corpusthomisticum.org/sth2006.html#33863>

C-2. 中世哲学史

1. 岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』有斐閣, 1993.
2. 『西洋哲学史 古代・中世編 フィロソフィアの源流と伝統』中川純男・内山勝利編, ミネルヴァ書房, 1996.
3. K. リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー, 平凡社, 2000.
4. K. リーゼンフーバー『中世思想史』平凡社ライブラリー, 平凡社, 2003.
5. 『中世哲学を学ぶ人のために』中川純男・加藤雅人編, 世界思想社, 2005.
6. アラン・ド・リベラ『中世哲学史』阿部一智・永野潤・永野拓也訳, 新評論, 1999.
7. 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書, 岩波書店, 2006.
8. 伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留 責任編集『世界哲学史』全 8 巻+別巻, ちくま新書, 2020:
第 1 巻 古代 I 「知恵から愛知へ」
第 2 巻 古代 II 「世界哲学の成立と展開」
第 3 巻 中世 I 「超越と普遍に向けて」
第 4 巻 中世 II 「個人の覚醒」
第 5 巻 中世 III 「バロックの哲学」

C-3. トマス・アキナスの思想

1. 山田晶編訳『トマス・アキナス』全 2 巻, 川添信介補訂, 中公クラシックス, 中央公論社, 2014.
2. 『中世思想原典集成 14 トマス・アキナス』山本耕平監修, 平凡社, 1996.
3. E. ジルソン、Ph. ベーナー『アウグスティヌスとトマス・アキナス』服部英次郎・藤本雄三訳, みすず書房, 1981.
4. 『トマス・アキナス』稲垣良典編訳, 講談社学術文庫, 1999.
5. 稲垣良典『トマス・アキナス『神学大全』』講談社選書メチエ, 講談社, 2009.
6. E. ジルソン『キリスト教哲学入門 聖トマス・アキナスをめぐる』松本鉄平訳, 慶應義塾大学出版会, 2014.